

**動物資源生産学特論（二）**（2単位）

担当者氏名 亀山 祐一

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

学部の講義ではカバーできなかった産業動物、実験動物、伴侶動物を含めたヒトと動物の関係について考える。具体的には動物と法、食肉処理施設、食における生命倫理の3つの大きなテーマを通して、動物資源と私たちの生活の関わりに対する観点の涵養を目的とする。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

動物と法                      生命倫理                      ヒトと動物の関係

◆授業の進行等について

	テ ー マ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	動愛法（第1～2週）	動物の愛護及び管理に関する法律の成立と改正の流れについて学ぶ	◎本講義は教員と学生、学生相互の論議を重視する。
2	外来生物法（第3～4週）	特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律と実際の対応について学ぶ	◎講義前は関係省庁、関係団体のHPを閲覧し、自分なりの考えをまとめておくこと。
3	動物実験（第5～6週）	動愛法における実験動物の位置づけ、同法に則した動物実験の実施方法について学ぶ	◎講義後は配布資料を読み直し、さらに追加情報を入手してレポートをまとめること。
4	アニマルセラピー（第7～8週）	動物介在活動・療法・教育について学ぶ	
5	身体障害者補助犬（第9～10週）	盲導犬、聴導犬、介助犬育成の現状と受け入れについて学ぶ	
6	食肉処理施設（第11～12週）	ウシ、ブタ、ニワトリの食肉処理施設について学ぶ	
7	いのちの食べ方（第13～14週）	農業における効率を考慮した大量生産の現状を知り、「いのちの食べ方」について考える	
8	まとめ（第15週）	これまでの講義を振り返って総括する	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

講義資料を配付する

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

講義の都度紹介する

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト）

出席2／3以上が評価対象となる。出席と課題のレポートで評価する。

◆オフィスアワー

毎週月曜の12:00～13:00に研究室で質問等を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

教員から教わるのではなく、自分で考える姿勢で授業に臨んで欲しい